

2023年4月～2023年9月の観光動向

- ・ 国外宿泊者数は対前年比 5,531.9%と急増。ただし、コロナ禍前の 2019 年同月と比較すると回復は 73%にとどまる。
- ・ 観光案内所来所者数はコロナ禍前の 2019 年同月比 84%まで回復。コロナ禍前と比べると、フィリピン、シンガポール、アメリカ、カナダ、インドからの来所が増加。逆に従来主要なマーケットであった中国、タイからの来所は減少。旅行市場の変化が観測された。

● 宿泊客数の動向

- ・ 2023 年 4 月から 2023 年 9 月の国内宿泊客数は対前年度比で 94.4%と減少しました（表 1）。全国（108.8%）と比較すると、山梨県（90.5%）と同様に減少傾向を示しており、コロナ禍からの反動による国内旅行先の変化が考えられます。
- ・ 同時期の国外宿泊者数は対前年比で 5,531.9%となり、大幅に上昇しました（表 2）。このことは、観光目的の入国制限撤廃や WHO 世界保健機関によるパンデミックの終息宣言により、国際旅行の障壁が下がったことによるものと考えられます。
- ・ ただし、コロナ禍前の 2019 年 4 月から 9 月の国外宿泊者数は 35 万人を記録していたことから、コロナ禍前と比べるとまだ 73%の回復にとどまります。この理由は三つ考えられます。一つは、コロナ禍前の国外宿泊で最も高いシェアを占めていた中国からの旅行需要が回復していないからです。このことは、後述の観光案内所来所状況からも明らかです。表 3 によると、中国からの来所者は、対 2019 年比で 24%にとどまります。二つ目は、人手不足に起因する宿泊収容数が低下している可能性です。全国的に観光業の人手不足が指摘されていますが、それに伴い、観光サービス供給が需要に追いつけないことが考えられます。三つ目は、宿泊施設（客室数、収容人数）の不足によるものです。最近では河口湖駅をみればインバウンド観光客で大変なにぎわいを見せており、オーバーツーリズムが懸念される状況とも言えます。最新の 2023 年 11 月に実施した観光実態調査によると、国外旅行者のうち、38.4%が日帰りでも 6 割が町内に宿泊しています。2019 年の同時期におこなった同じ調査によれば、日帰りの割合は 36.8%と、誤差に収まる範囲の可能性はありますが、若干日帰りの割合が増加しました。このことから、町内に宿泊を希望しても、満室である、あるいは希望するタイプの宿泊ができない等、宿泊サービスの不足により宿泊客を取りこぼしている可能性が考えられます。

表 1 国内延べ宿泊客数の増減

	対前年比（2023年/2022年）		
	富士河口湖町	山梨県*	全国*
4月	109.1%	85.2%	108.8%
5月	99.6%	84.7%	112.3%
6月	103.6%	84.4%	106.4%
7月	92.4%	99.6%	106.6%
8月	82.5%	93.2%	109.0%
9月	90.2%	91.6%	104.9%
計	94.4%	90.5%	108.0%

*観光庁「宿泊旅行統計調査」

表 2 国外延べ宿泊客数

単位：人

	2022年	2023年		対前年比（2023年/2022年）		
				富士河口湖町	山梨県*	全国*
4月	239	59,469	4月	24882.4%	9059.7%	1791.7%
5月	380	42,957	5月	11304.5%	4904.4%	1300.0%
6月	297	40,269	6月	13558.6%	3849.6%	1468.0%
7月	1,083	42,628	7月	3936.1%	2769.7%	1554.4%
8月	1,235	36,888	8月	2986.9%	1651.4%	1386.2%
9月	1,393	33,751	9月	2422.9%	2054.9%	1203.7%
計	4,627	255,962	計	5531.9%	3086.7%	1429.7%

*観光庁「宿泊旅行統計調査」

●観光案内所を訪れる外国人旅行者の動向

- 2023年4月から2023年9月にかけて観光案内所への来所が多いのは、香港からの来所者で7,325人（14%）、次いで台湾5,964人（12%）、アメリカ4,752人（9%）という結果でした（図1）。国籍別の構成比をみると東アジアおよび東南アジアからの来所で半数以上を占めています。
- 2023年4月から2023年9月にかけての総来所者数は5万人となりました（表3）。コロナ禍前の2019年と比較すると84%となり、宿泊需要よりも早い回復が認められます。
- コロナ禍前からの変化という観点では、コロナ禍前よりも来所が増加した地域と減少した地域があり、旅行市場の変化が観測できます。増加したのは、フィリピン（156%）、カナダ（146%）、シンガポール（132%）、アメリカ（131%）、インド（129%）が挙げられます。これらは、円安による訪日旅行のお得感があるアメリカやカナダ、コロナ禍前より需要が増加傾向であったフィリピンやインドからの旅行者という傾向がありそうです。一方、大幅に減少したのは中国（24%）、タイ（53%）からの旅行者であり、どちらもコロナ禍前の町内の主要なマーケットであった点が共通しています。どちらも今後とも減少が続くとは考えにくいのですが、そうであれば今後も観光案内所への問い合わせは増加すると考えられ、観光案内所の一層の機能充実が求められるでしょう。

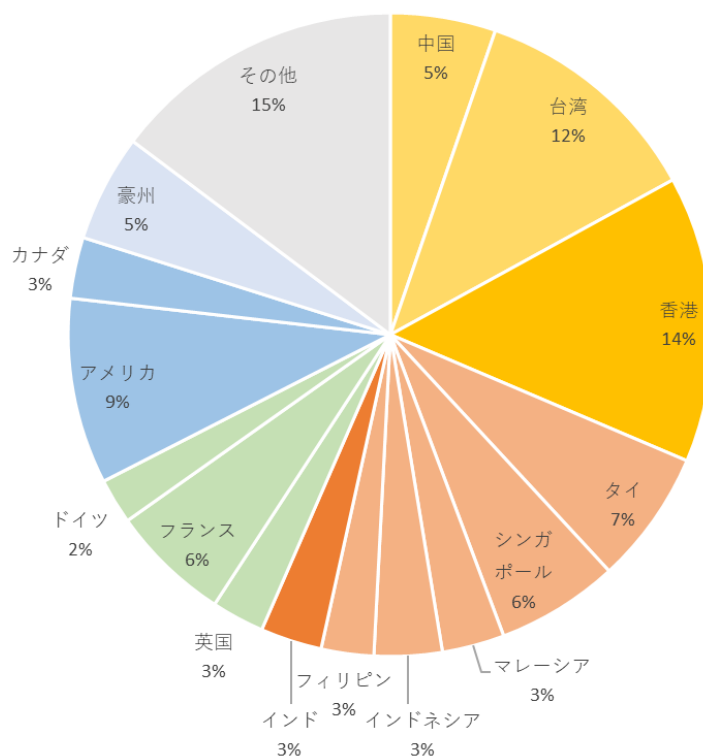


図1 観光案内所来所者の国籍別構成比

表3 国籍別観光案内所来所者数（延べ人数）（1/2）

単位：人

	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	フィリピン
4月	178	1,217	1,450	1,558	927	564	543	468
5月	322	898	1,132	920	649	405	335	238
6月	390	1,117	1,229	328	676	160	319	234
7月	638	1,058	1,264	195	297	106	216	164
8月	600	933	1,273	190	200	121	121	124
9月	561	741	977	229	381	236	199	113
2023年計	2,689	5,964	7,325	3,420	3,130	1,592	1,733	1,341
2019年計	11,429	5,148	5,823	6,508	2,365	1,763	2,585	860
対2019年比	24%	116%	126%	53%	132%	90%	67%	156%

表4 国籍別観光案内所来所者数（延べ人数）（2/2）

単位：人

	インド	英国	フランス	ドイツ	アメリカ	カナダ	豪州	合計
4月	397	356	653	238	1,138	394	912	12,758
5月	369	254	702	241	820	352	511	9,416
6月	203	147	210	109	785	110	313	7,129
7月	222	185	556	165	894	259	328	7,890
8月	212	173	601	189	472	246	194	6,835
9月	165	234	332	218	643	200	481	6,845
2023年計	1,568	1,349	3,054	1,160	4,752	1,561	2,739	50,873
2019年計	1,213	1,883	3,193	1,224	3,616	1,066	2,839	60,460
対2019年比	129%	72%	96%	95%	131%	146%	96%	84%

各種統計の調査方法

○宿泊者数

- ・富士河口湖町観光連盟に加盟する 266 の宿泊施設を対象に実施された宿泊者統計調査の回答をもとに作成しています。対前年比が比較できる約 70 軒の施設を集計して数値を公表しております。

○観光案内所統計調査

- ・河口湖駅に隣接する富士河口湖観光総合案内所において、来所者への案内中に国籍を直接尋ねることで、国籍別の来所者数を計上しています。